



BSR 通信

BSR 推進室ニュースレター第 9 号

平成 26 年 12 月 10 日

発行：大正大学 BSR 推進室

〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨 3-20-1

03-5394-3079 (直通)

bsr_lab@mail.tais.ac.jp

目次

- 1 頁 : 巻頭言
- 2 頁 : さざえ堂だより
- 3 頁 : 研究ノート
- 4 頁 : BSR 図書室・今後の予定

声明公演と仁王尊開眼

大正大学仏教学部 准教授

勝野 隆広

12 月に入ると、師走と呼ぶとおり大学内は気忙しくなります。4 年間の学習の集大成である卒業論文提出の締め切りを控え、学生も指導する教員も論文完成に向け最後の追い込みにかかるからです。ただし、それも 15 日の締め切りまで。それを過ぎると、研究室は気の抜けた状態となり、大掃除や忘年会、年越しムードになります。

年末を迎えるこの時期、世間ではベートーベンの「第九」の演奏会が各地で開かれますが、仏教大学である大正大学では毎年、礼拝堂を会場に天台宗門系の学生・教職員による「声明公演」を開催しております。

声明とは、お経に節をつけ歌うよう

に唱える仏教音楽の一種です。もとは僧侶の修行のための行法であったものが、僧侶だけでなく法要に参列する一般の方々にも仏教世界のありさまが伝わるよう法要儀礼として整備されて、平安時代頃より催されてきました。

そこでは仏像や法衣など目に映るもの、読経や鐘など耳に聞こえるもの、お香の香りなどが五感に響き、多くの僧侶が歩き座り礼拝し花びらを散す静動あいまった所作が、一種の群舞のような趣きをもって展開されます。

今年の公演は、第一部では「法華懺法」という法華經に登場する諸仏諸菩薩に礼拝散華し、日頃の自分の身口意三業の営みを懺悔し

て障りを除くという法要を行います。また第二部は「光明供錫杖」という密教修法と声明による法要で、併せて雅楽の奏樂と「仁王尊」の開眼も行います。「仁王尊」は「金剛力士」とも呼ばれ、阿形像と吽形像の二体が対となって寺院の入り口に立ち、仏法を魔から護る役割を担っています。筋骨隆々とした体躯で眼をひん剥いて相手を見据えるお姿は、見るものを威圧します。しかしその迫力あるお姿の内に、実は深い慈悲の心が秘められているといえます。

今回、開眼を行う仁王尊は、筑波山麓の天台宗寺院にあった鎌倉期の仏像です。長年の風雨に損傷し倒れていたお像が、仏教学科の仏像

研究の授業で専門家の指導の下、学生の手によって修復されました。元のお姿を取り戻した仏像に、今また魂を請じ入れ、「仁王尊」として世の平安と皆様のご守護を祈願したいと考えております。

今年で 12 回目を数える声明公演は、毎回学内外の関係者や地域の方々など 500 名を超す皆様にお越しいただいており、舞台にのぼる学生たちも、日頃の研修の成果が発揮できるよう本番に向け練習を重ねて

おります。年末の慌ただしい時期、声明公演を通じて仏教のもつさまざまな魅力に触れ、こころ穏やかな一時を

過ごしていただければ幸いです。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

天台声明と雅楽の夕べ

仁王尊開眼 ～みほとけの心にふれる～

日時 平成 26 年 12 月 20 日 (土)

午後 3 時開場、午後 3 時 30 分開演

会場 大正大学 礼拝堂ホール

○全席自由席・入場無料 ただし事前申込が必要です
(詳細は折込別紙参照)

さざえ堂だより 御手糸の秘密

さざえ堂には参拝記念品として自由に持ち帰ることができる「お守り」があるをご存知でしょうか。

このお守りの表書きには「鴨台観音結縁御手糸」と書かれています。包みを開くと、さざえ堂頂上に安置されている観音様とのご縁を結ぶ象徴として、五色の糸が封入されております。また、包みには、大正大学の教育ビジョンである慈悲・自灯明・中道・共生の言葉が解説とともに書かれています。

実はこの御手糸、豊島区にある「あさやけベーカリー」というパン屋さんで作られています。パン屋さんでお守り？と思うでしょう。そうですね、ふつうパン屋さんではお守りなんか作りません。ところがこのパン屋さん「ふつう」じゃないんです。

あさやけベーカリーで働くのは、元ホームレスだった人や、こころや身体に

病や障がいをもつ人たち。もともとあった街のパン屋さんの協力を得てお店を始めました。

お店といっても毎日パンを焼いて営業しているわけではありません、イベントや生活困窮者向けの炊き出しにあわせて、パンを焼いて配っています。作業に従事するみなさんは自分の心の拠り所として、あるいは居場所としてこのパン屋さんに通っています。

このあさやけベーカリーはフランスに本部を置く国際 NGO、世界の医療団の東京プロジェクトの一環として行われています。

この御手糸、多い時では月に 2000 個以上の数が参拝者の手にわたります。当初 BSR 内で手作りしていましたが、あまりの多さに生産が追いつかず製作を委託しようということになりました。その際、御手糸ができるだけ多様な人を結ぶ縁になってほし

いなあという願いからこのパン屋さんにお願いをしたのです。そのような思いを快く受け止めてくださって、現在御手糸を作っています。

ちなみに納品された御手糸は、僧籍を持つ職員によって加持が行われ、観音様の「お守り」として多くの参拝者にお持ち帰りいただいています。

観音様のご縁を通じて私たち地域、社会の人々すべてを結ぶ、そんな御手糸なのです。お参りの際にはぜひお手に取ってみてください。(T)



研究ノート

自死に向きあう

—自死者追悼法要について①—

1998年に日本の年間自殺者数が3万人を超えてから、自殺・自死が社会問題として認識されるようになってきました。2006年に制定された自殺対策基本法第2条には、「自殺対策は、自殺が個人的な問題としてのみとらえられるべきものではなく、その背景に様々な社会的な要因があることを踏まえ、社会的な取組として実施されなければならない」と規定されています。それまでは、個人的な問題とみなされてきた自殺・自死が、社会的に取り組むべき課題となったのです。

こうした社会的意識の変化のなかで、具体的な取り組みを行なう仏教者もあらわれるようになります。

活動はさまざまですが、今回の研究ノートでは、仏教者の自殺対策のうち、遺族支援について紹介してみたいと思います。基本法第1条には「自殺対策を総合的に推進して、自殺の防止を図り、あわせて自殺者の親族等に対する支援の充実を図り」とあるように、自殺対策というのは、防止とともに遺族支援が大きな柱となっているのです。

(なお、本稿では、自ら命を絶った方を自死者、遺族については自死遺族と表記します。)

自死者追悼法要

12月1日が「いのちの日」ということをご存知でしょうか。「いのちの日」とは、こころの健康の理解促進、ひいては自殺対策の取り組みを進めるために厚生労働省がさだめたものです。

この12月1日に毎年、自死者追悼法要を行っている団体があります。「自死・自殺に向き合う僧侶の会(旧称:自殺対策に取り組む僧侶の会、以下、僧侶の会)」という、2007年に発足した超宗派の僧侶による団体です。学ぶだけでなく、具体的な行動をという目的で結成された僧侶の会の最初の行動が追悼法要「いのちの日のいのちの時間」でした。

2007年12月1日、大田区にある会員が住職を務める寺院にて開かれた法要には、8名の自死遺族が参列。会員と面識のある自死遺族への口コミによって集まった方々でした。翌年は、新聞に告知記事を載せてもらったり、各自死遺族団体に広報したりすることで、120名の参列者がありました。この時は会場も築地本願寺となり、スタッフにも会員以外にお手伝いの僧侶が多数参加するなど、規模が大きくなりました。それ以降も、

2009年:107名、青松寺
2010年:153名、護国寺
2011年:171名、増上寺
2012年:145名、青松寺
2013年:155名、築地本願寺
と、毎年、都内の大きな寺院を会場に、150名前後の参列者を迎えています。



<第1回自死者追悼法要の光景>

そして、今年の12月1日は日蓮

宗の池上本門寺を会場とし、135名の参列のもと、厳粛に執り行われました。

全国各地への拡がり

僧侶の会は首都圏在住であることが基本になっていますが、この活動に刺激を受け、各地でも手を挙げる仏教者があられてきます。

2009年からは、名古屋の大谷派東別院、大阪の四天王寺において、2010年からは広島の本願寺広島別院において、自死者追悼法要が営まれるようになります。また、この法要を軸として、「いのちに向き合う宗教者の会」(東海地方)、「自死に向きあう関西僧侶の会」(関西地方)、「自死に向きあう広島僧侶の会」(中国地方)が結成されています。さらに、今年から、九州でも追悼法要が開催されることになりました。「自死に向きあう九州仏教者の会」が発足し、12月17日、本願寺福岡教堂において開催されます。



<昨年の自死者追悼法要の光景>

こうした活動の輪の拡がりの背景としては、問題意識を持った仏教者が増えているということであると同時に、追悼法要を必要としている遺族が確実に存在しているということでもあるでしょう。今号では紙幅の都合で、そこまでふれられませんが、あらためて、自死遺族のおかれている現状や法要へのニーズについて記すことといたします。(〇)

BSR 図書室

岡 檀

『生き心地の良い町—この自殺率の低さには理由がある』
(講談社、2013 年、1,400 円+税)

みなさんは徳島県にある海部町という地名をご存知でしょうか。2006 年に市町村合併で海陽町の一部となったこの町は、人口 3,000 人程度のどこにでもあつた田舎町。しかし、きわめて自殺率が低い町なのです。自殺率とは 1 年間で人口 10 万人当たり何人が自殺をしたかという数値で、全国の 30 年平均が 20 台のところを海部町は 10 を下回ります。隣接する 2 つの町は全国平均を上回っているにもかかわらずです。

この点に目をつけた著者は、現地に滞在して、住民への聞き取り調査・アンケート調査を行い、他の地域との比較や統計データも用いながら海部町の秘密を探っていきます。そして、著者は、自殺率が低い海部町にあつて、高い地域にはない要素を「自殺予防因子」と名付け、5 つの因子を示します。それは、「いろんな人がいてもよい、いろんな人がいたほうがよい」、「人物本位主義をつらぬく」、「どうせ自分なんて、と考へない」、「『病』は



市に出せ」、「ゆるやかにつながる」というもの。横並びを良しとせず、肩書や出自で人を判断せず、自分への信頼感を持ち、悩んだら我慢せず、粘着しないコミュニティがあるということでしょう。たとえば、海部町ではうつ病受診率が高いのですが、普通はうつ病が多い=自殺率が高いと思つてしまいます。でも、これは精神的におかしいなと思つたら気軽に、周囲からの偏見もなく精神科にかかれる社会ということなのです。また、今は「絆」が強調されますが、自殺率の高い隣接 2 町よりも海部町は住民間のつきあいは薄いそうです。程ほどの人間関係が生き心地を良くすることなのでしょう。

本書は、読みやすい軽妙な筆致で書かれていますが、生き方への示唆をおおいに与えてくれます。(O)

今後の予定

12月20日(土)	11時~12時 9時~13時 15時30分~	花会式(天台宗) あさ市(餅つき大会) 天台声明と雅楽の夕べ	鴨台観音堂前 南門 けやき広場 礼拝堂
		*主催=大正大学台友会	
12月26日~31日	さざえ堂 休館	※1月1日からは通常どおり開館します。	
1月24日(土)	11時~12時 9時~13時	花会式(真言宗智山派) あさ市	鴨台観音堂前 南門 けやき広場

